

調 査 編

I. 都市概況の整理

II. まちづくりの課題

調査編 I : 都市概況の整理

1. 伊豆の国市の概要

(1) 位置・交通アクセス

本市は、伊豆半島の北部、田方平野のほぼ中央に位置しています。東京からは 100 km 圏内にあり、東海道新幹線から伊豆箱根鉄道駿豆線、あるいは東名高速道路・新東名高速道路から、伊豆縦貫自動車道、伊豆中央道、国道 136 号を利用してそれぞれ 1 時間半程度の所要時間となっています。静岡県東部の中心地である沼津市や三島市にも近く、利便性に恵まれた立地となっています。

2. 自然的条件・地域資源

(1) 地勢・風土

①地勢

本市の東側には箱根山系の山々が峰を連ね、西側には城山、葛城山といった山に囲まれており、平野部には天城連山に源を有する水量豊富な狩野川が南北に流れ、自然の豊かな恵みを楽しんでいます。狩野川に沿うように国道 136 号と伊豆箱根鉄道駿豆線が走り、その周辺には市街地が形成され、湯量豊富な温泉資源に恵まれた温泉街とともに、肥沃な土壌からなる田園等が、豊かな自然と調和した美しい景観を創り出しています。



資料：第2次伊豆の国市総合計画

②動物の分布状況

本市では、1,821 種の動物（哺乳類：15 種、鳥類：130 種、爬虫類：12 種、両生類：7 種、魚類：35 種、昆虫類：1,600 種、水生動物：22 種）が確認されています。確認種の多くは、県内では平地から低山地にかけて見られる種です。

本市の動物相の特徴の一つとして水質のきれいな川に生息する動物がいることがあげられます。市内を流れる狩野川とその支流では、カワセミやヤマセミ（鳥類）、カジカガエル（両生類）、アマゴやウツセミカジカ（魚類）、アオハダトンボやゲンジボタル（昆虫類）などが見られます。また、狩野川の河川敷では、カヤネズミやギンイチモンジセセリといったイネ科の草原に生息する種が見られます。

この他、市内にはクヌギやコナラの林が比較的多く、里山に生息する昆虫類が見られることが特徴です。クヌギやコナラの林では、樹液に集まるカブトムシやノコギリクワガタ、シジミチョウの仲間（ウラナミアカシジミやオオミドリシジミ）などが生息しています。

③植物の分布状況

本市では 1,119 種の植物が確認されています。

本市は気候が暖帯であり、コナラ、ウバメガシ、アラカシなどの高木、ハナイカダ、ヒサカキ、ハコネウツギなどの低木のほか、林床にはテイカカズラ、ベニシダ、キチジョウソウなどが生育しています。

なお、市の花である“すみれ”、“あやめ”、市の木である“榊（なぎ）”は、地域のシンボルとして市民に親しまれています。

■ 市の花



すみれ



あやめ



榊（なぎ）

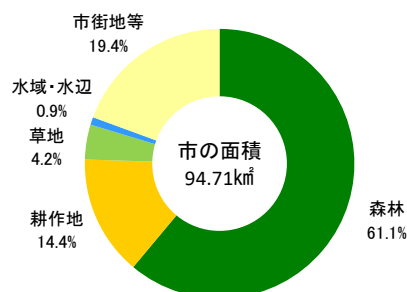
④植生

本市の植生面積は森林が約 6 割 (61.1%) を占め、次いで耕作地 (14.4%)、草地 (4.2%)、水域・水辺 (0.9%) となっています。市街地等は約 2 割 (19.4%) となっています。

山地に広がる森林の大部分はスギ・ヒノキ林や竹林などの植林地であり、市の北西部に広がる山地の斜面、深沢川や戸沢川などの流域に、コナラ林などの落葉広葉樹林が分布しています。

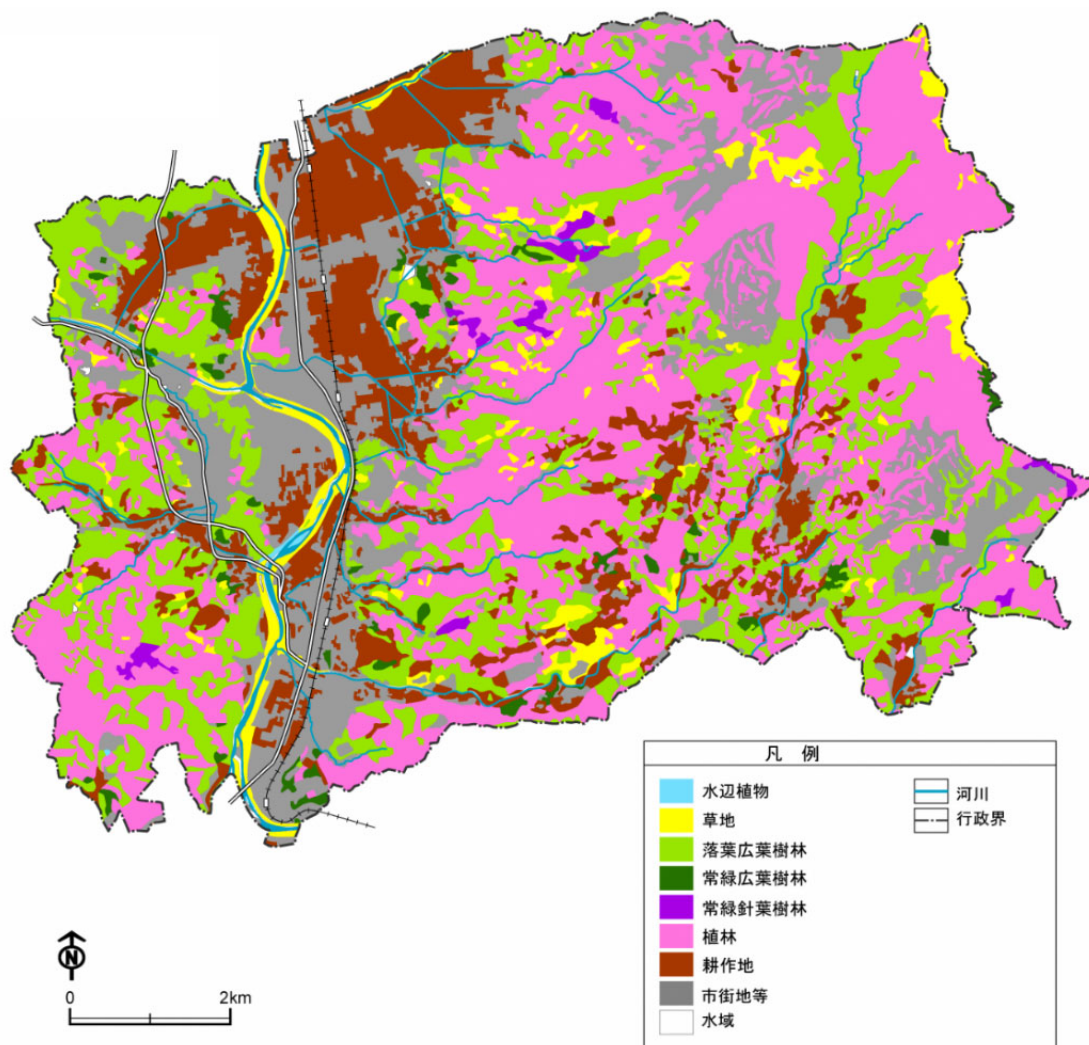
また、常緑広葉樹林は人の手が加わっていないわずかな地域に分布しています。さらに標高が高い場所には、アカマツ林などの常緑針葉樹林が点在しています。

市内を南から北へ流れる狩野川沿いの平地には、市街地や耕作地が分布しており、河川敷や山地の伐採跡地などには草地がみられます。



資料：伊豆の国市環境基本計画

■ 既存植生図



資料：伊豆の国市環境基本計画

(2) 歴史・文化

狩野川流域に位置する本市は、旧石器時代から人の営みがあったことが知られ、原始・古代から近現代にいたる様々な歴史文化資源が、今日まで受け継がれています。また、時代を動かす舞台となってきたことも、本市の特徴です。

江間地区には、古墳時代の横穴墓が数多く残っており、「史跡北江間横穴群」となっています。ここから出土した「若(わか)舎人(とねり)」の文字が刻まれた石(いし)櫃(びつ)は、重要文化財に指定されています。

平安時代末、市内の「蛭ヶ島」に流されていた源頼朝が、北条氏の後ろ盾を得て平氏打倒の兵を挙げたことから、武士の世である鎌倉時代への扉が開かれました。そして、北条氏の館跡「史跡北条氏邸跡(円成寺跡)」や、北条氏の氏寺である「史跡願成就院跡」があります。現在の願成就院には、北条時政が仏師運慶に依頼して作らせた仏像5体(国宝)が安置されています。

室町時代には、幕府の東国支配を担う堀越(ほりごえ)公方(くぼう)足利政知の御所が築かれ、その跡は「史跡伝堀越御所跡」として指定されています。その後、伊勢宗瑞(北条早雲)が足利政知の跡を継いだ足利茶々丸を攻め滅ぼし、「葦山城」を築いたことで、東国の戦国時代が幕を開けました。

江戸時代には、江川家が代々幕府の葦山代官を務めており、その屋敷は「重要文化財江川家住宅」として今日まで継承されています。幕末期には、この江川家から江川英龍(坦庵)が出て、名代官として功績を残すとともに、「葦山反射炉」や品川台場の築造を通じて日本の海防政策を担いました。「葦山反射炉」は、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産として、世界遺産にも登録されています。

また、天保13年(1842)と書かれた台本が残る広瀬神社の式(しき)三番(さんば)をはじめ、市内5か所で伝承されている「三番叟(さんばそう)」は、古くから続く伝統ある民俗文化財です。

明治時代には、江川邸に葦山県庁が置かれるなど、伊豆地域の中心として発展してきました。

その後、この地域は、「明治の大合併」、「昭和の大合併」、「平成の大合併」を経て、2005年4月1日、現在の伊豆の国市となりました。

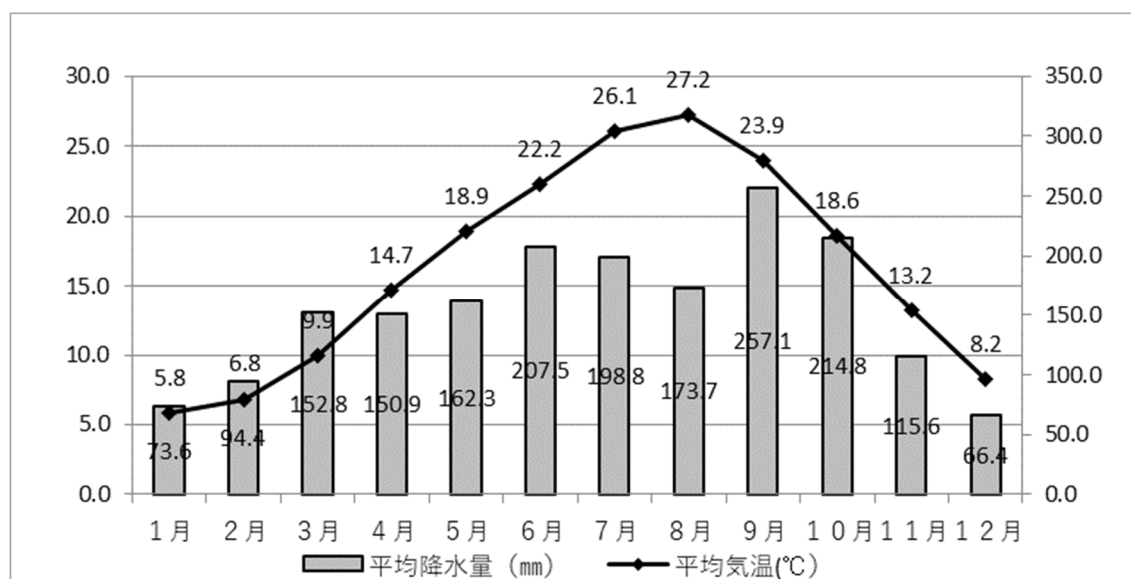
このように、本市は、様々な時代にわたる豊富な歴史資源が重層的に存在する「歴史のまち」となっています。

(3) 気象

本市の気候は、太平洋を流れる黒潮（暖流）の影響で、年間を通じて比較的温暖です。夏は太平洋からの季節風の影響で雨が多く、冬は日本海からの季節風が山地や山脈で遮られるため晴れの日が多くなっています。

本市の年平均気温及び年平均降水量を 1990 年から 2019 年までの 30 年間の気象観測データで見ると、平均気温は 16.3℃、降水量は 1,867.7mm となっています。

■ 月別平均気温・平均降水量



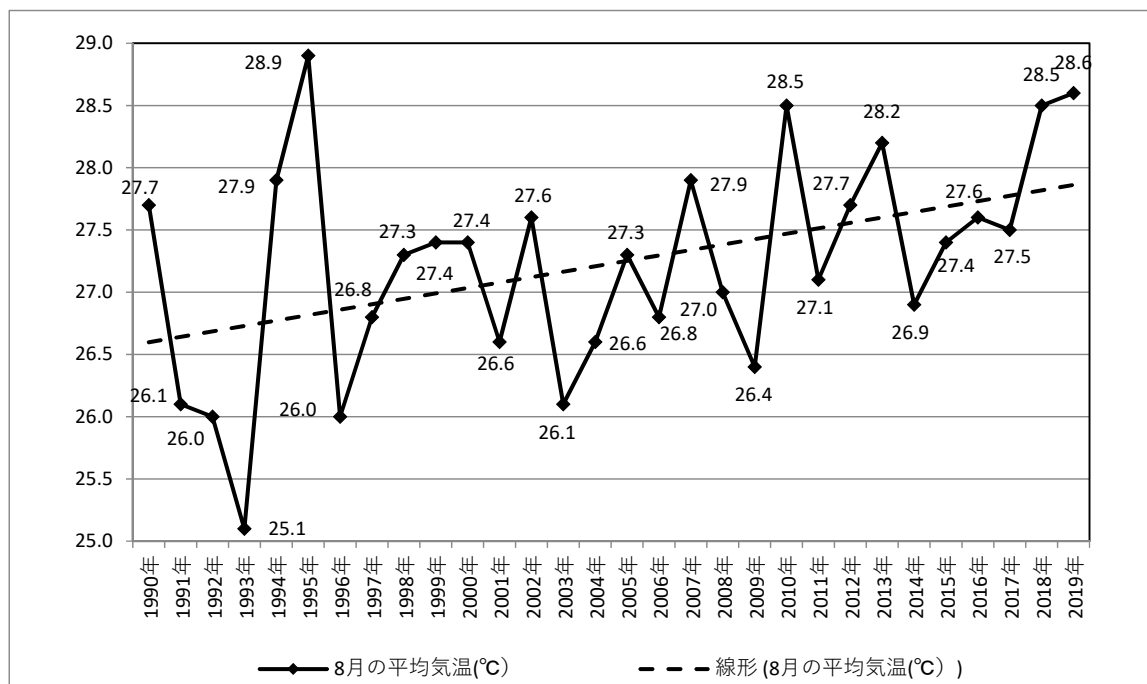
月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
平均 気温 (°C)	5.8	6.8	9.9	14.7	18.9	22.2	26.1	27.2	23.9	18.6	13.2	8.2	16.3
月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平均 降水量 (mm)	73.6	94.4	152.8	150.9	162.3	207.5	198.8	173.7	257.1	214.8	115.6	66.4	1867.7

資料：国土交通省気象台（三島特別地域気象観測所データ）

1990 年から 2019 年までの 30 年間の平均値を示す

本市の8月の日平均気温を1990年より2019年までの30年間の気象観測データで見ると、この30年間で8月の平均気温は約1℃上昇しており、地球温暖化に伴う平均気温の上昇が懸念されます。

■ 8月の平均気温変動グラフ



資料：国土交通省気象台（三島特別地域気象観測所データ）

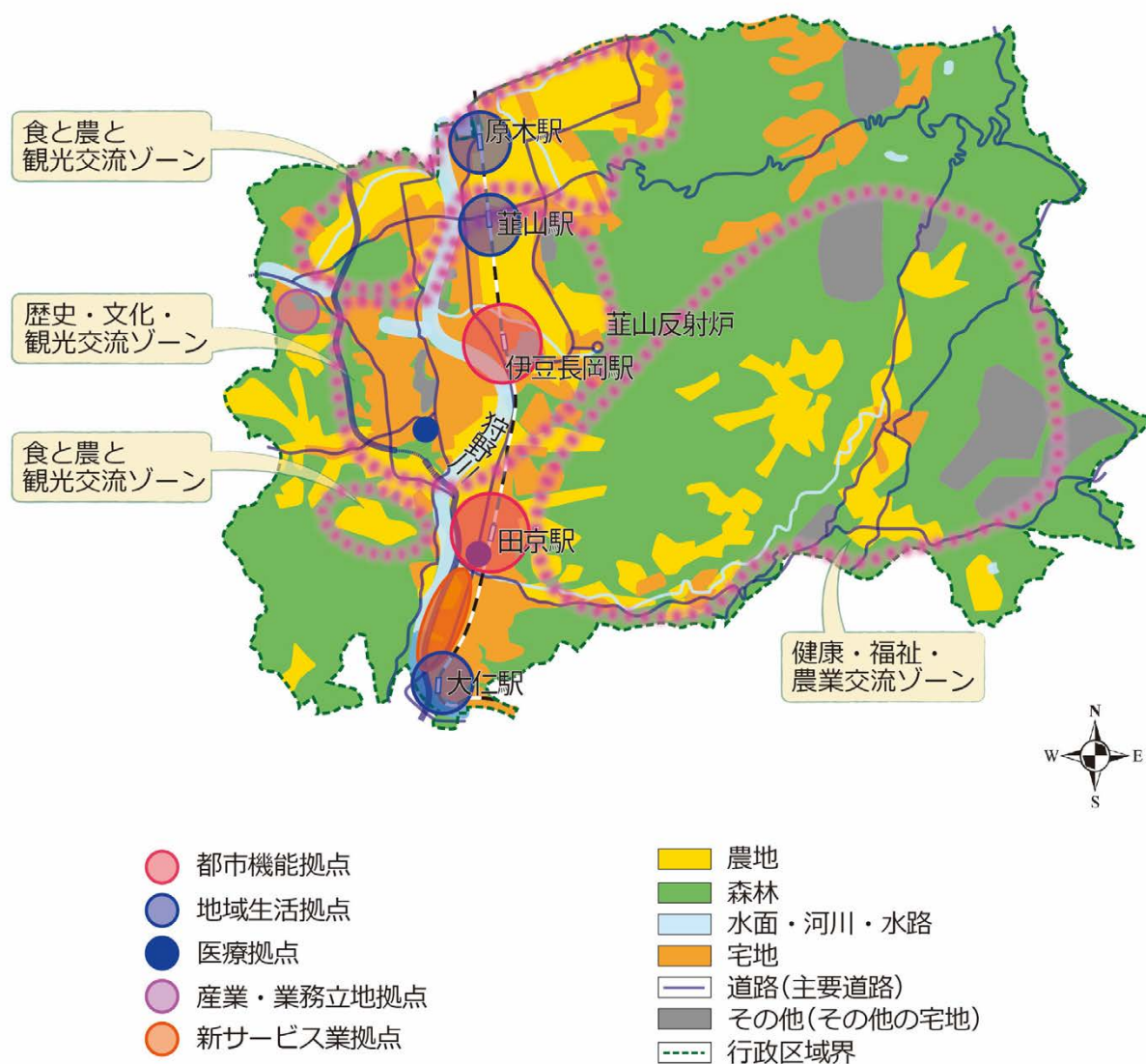
1990年から2019年までの30年間の平均値を示す

(4) 土地利用の規制誘導

総合計画、国土利用計画ではゾーニング及び拠点、土地利用区分別の基本方針を定め、秩序ある都市形成に向けた方針を立てています。

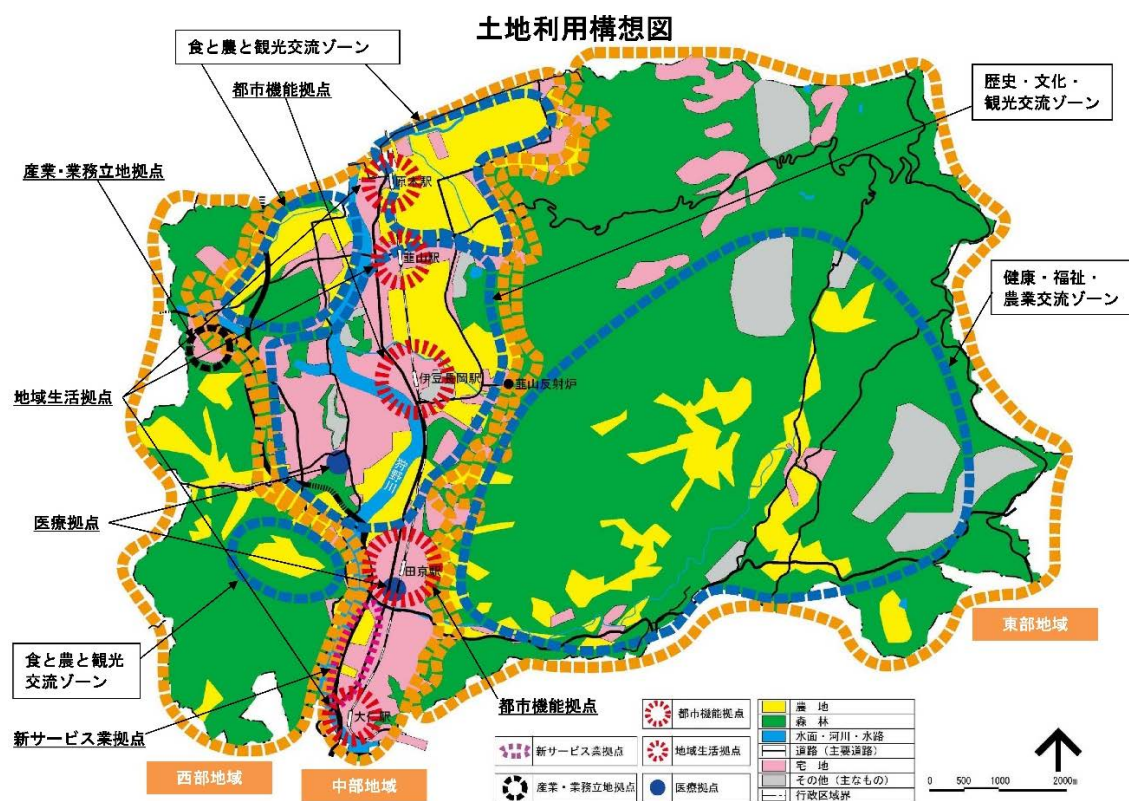
立地適正化計画では市街化区域内のハザード等を除外し、居住誘導区域、都市機能誘導区域を設定し、居住の誘導、都市機能の誘導を図っています。

■ 総合計画の土地利用構想図



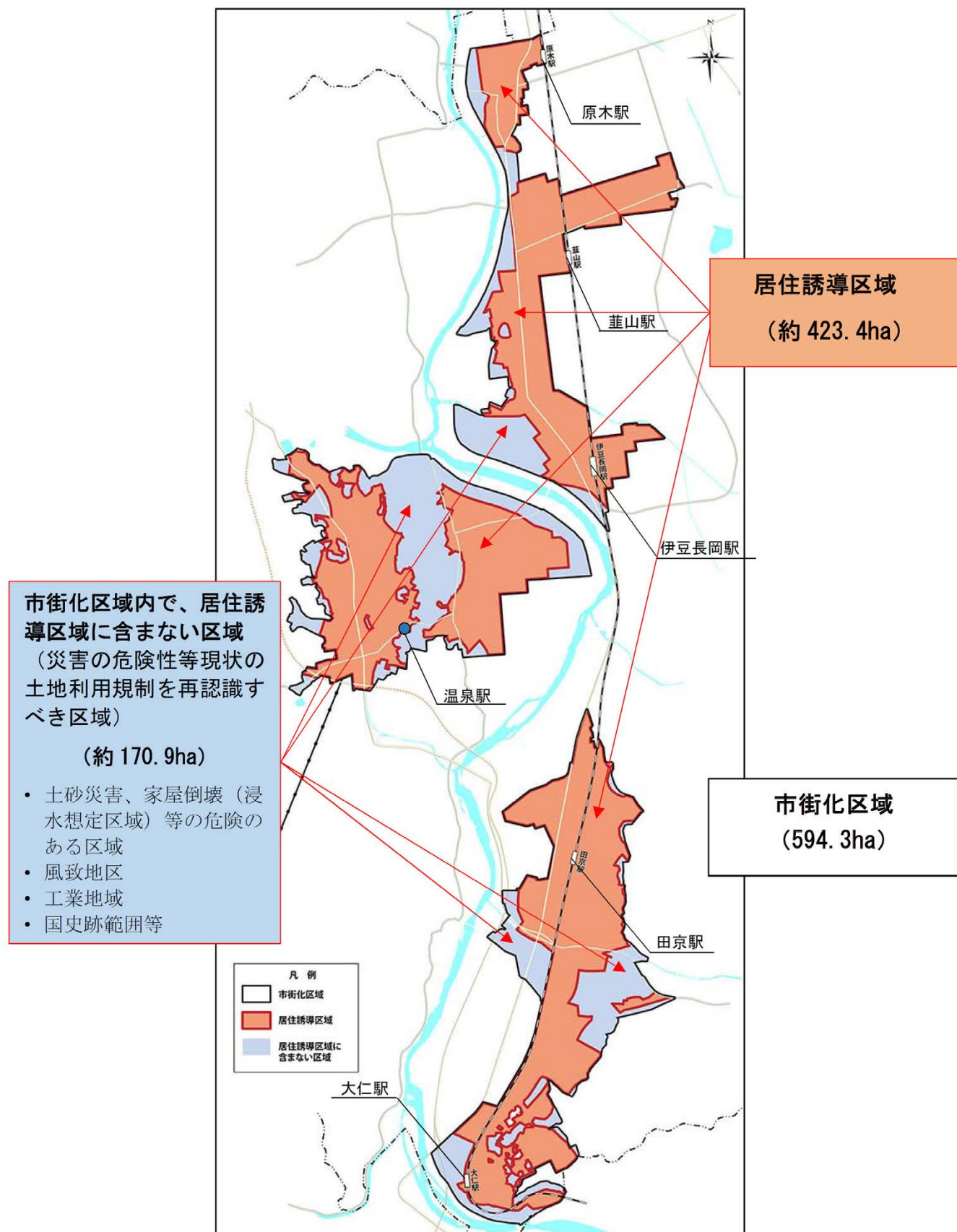
資料：第2次伊豆の国市総合計画

■ 国土利用計画の土地利用構想図



資料：国土利用計画第2次伊豆の国市計画

■ 立地適正化計画の誘導区域の設定



(5) 交通

①道路

本市の国・県道の状況をみると、2018 年で国道は路線数 2、改良率 99.4%、県道は路線数 13、改良率 81%となっています（改良率とは、実延長に対する幅員 5.5m 以上（改良済）の延長の割合で、整備の水準の目安となります）。県道の改良率は国道に比べ低くなっていますが、改良は年々進んでおり、2010 年より 12.4%増加し 81%となっています。

■ 国・県道の状況

年次	2010 年		2015 年		2018 年	
種別	国道	県道	国道	県道	国道	県道
路線数（路線）	2	13	2	13	2	13
実延長（m）	23,238	52,260	23,584	51,573	23,584	51,485
改良延長（m）	23,104	41,962	23,449	41,411	23,449	41,669
改良率（%）	99.4	68.6	99.4	80.3	99.4	81

資料：静岡県道路現況調査

本市の市道の状況をみると、2019 年で 1 級が 22 本、改良率 97.7%、2 級が 77 本、改良率 87.1%、その他が 2,004 本、改良率 98.0%となっています（市町村道は、重要度、交通量、交通の特性から、幹線 1 級市町村道と幹線 2 級市町村道、その他市町村道に区分されています）。その他の道路（特に幅員 5.5m 未満の道路）の改良が進み、高い水準になっています。1 級及び 2 級の道路も、改良は年々進んでいます。

■ 市道の状況

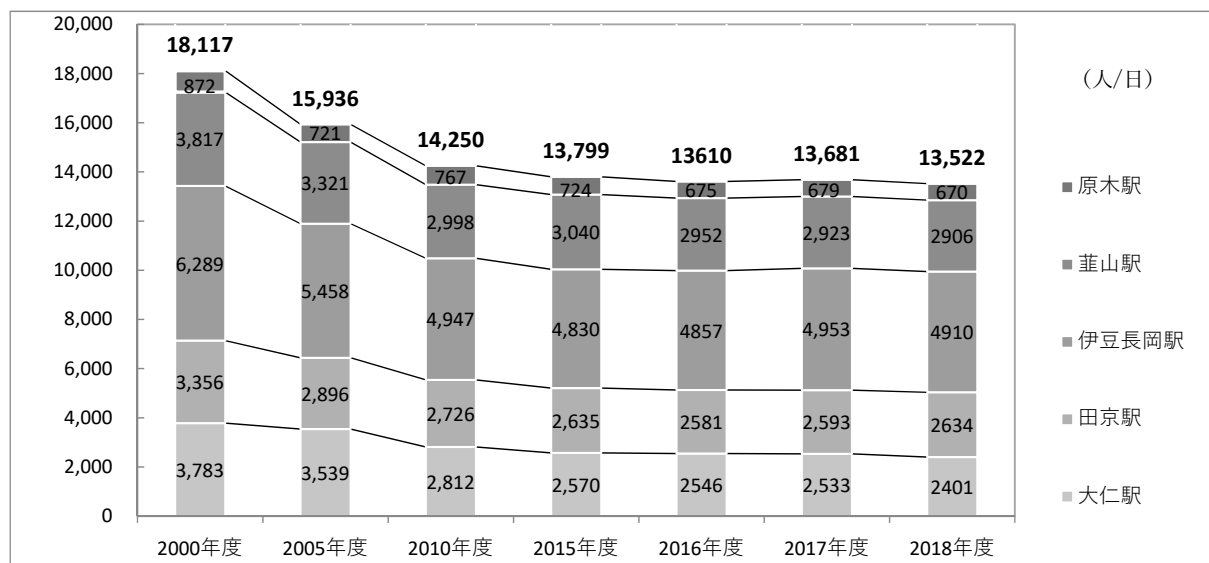
年次		2010 年			2015 年			2019 年		
種別		1 級	2 級	その他	1 級	2 級	その他	1 級	2 級	その他
路線数（路線）		22	74	1,792	22	77	2,000	22	77	2,004
実延長（m）		33,020	98,053	505,530	33,034	98,046	526,387	33,018	98,043	525,380
規格改良 延長 （m）	幅員 5.5m 以上	2,566	13,300	31,175	2,829	14,694	34,229	3,687	15,431	35,107
	幅員 5.5m 未満	29,641	71,013	240,800	29,391	70,299	258,204	28,586	69,987	479,705
改良率（％）		97.5	86.0	53.8	97.5	86.7	55.6	97.7	87.1	98.0

資料：道路施設現況調査、道路現況台帳

②公共交通

本市の鉄道（伊豆箱根鉄道駿豆線）の状況をみると、2000 年で約 18,000 人／日あった乗降客は、2015 年以降は 14,000 人／日を割り込み、乗降客の割合は約 75%に低下しています。近年は乗降客数がほぼ横ばいとなっています。

■ 伊豆箱根鉄道駿豆線 駅別乗降客数の推移



資料：静岡県統計年鑑 運輸・通信

本市のバス事業者は、伊豆箱根バス(株)、(株)東海バスの2事業者です。伊豆箱根バス(株)の状況をみると、全体的にバス利用者は減少傾向です。

■ 伊豆箱根バス(株)年間乗客数

(人／年)

運行系統				2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
長岡駅	—	長塚	— 沼津駅	461,598	459,789	439,862	244,138	226,250	204,025
長岡駅	—	長岡湯本 長塚	— 沼津駅	196,124	184,189	157,928	305,353	302,535	290,811
長岡駅	—	堀之上	— 沼津駅	5,263	5,404	4,902	5,116	5,378	5,094
沼津駅	—	浜通り	— 長岡駅	8,692	9,437	7,601	5,549	3,625	4,847
長岡駅	—	温泉駅	伊豆三津 シーパラ ダイス	4,924	5,073	5,296	5,433	6,482	5,397
長岡駅	—	温泉駅 宗徳寺前	伊豆三津 シーパラ ダイス	157,145	134,520	143,375	175,582	171,641	155,718
長岡駅	—	温泉駅 伊豆の国市役所	— 長岡温泉 北口	73,633	77,548	80,288	5,170		
長岡温泉 北口	—	温泉駅	— 長岡駅	72,011	72,011	77,011	4,761		
長岡駅	—	温泉駅 宗徳寺前	— 長岡駅				129,360	140,076	104,947
韮山駅	—	韮山庁舎 マックスバリュ 韮山店	— 千代田 団地	6,802	6,887				
韮山駅	—	保健センター前 マックスバリュ 韮山店	千代田 団地			6,174	9,996	8,204	4,930
千代田 団地	—	江間（直行）	— 韮山駅	779	1,118	1,764	1,764	2,051	1,450
長岡駅	—	長塚口 魚市場入口	— 沼津駅	566	446	608	2,751	2,557	2,725
三島駅 北口	—	文教町 加茂中央 順天堂病院前	— 温泉駅			4,140	1,350		
温泉駅	—	順天堂病院前 文教町 加茂中央	— 三島駅 北口			4,282	1,533		
三島駅 北口	—	加茂中央 順天堂病院前	— 温泉駅	5,262	6,261				
長岡駅	—	韮山反射炉 江川邸	— 長岡駅		3,420	14,094	12,003	6,554	4,721
三島駅 北口	—	加茂中央 江間いちご 順天堂病院前	— 温泉駅			1,258	186		
温泉駅	—	順天堂病院前 江間いちご 加茂中央	— 三島駅 北口			1,368	227		
千代田 団地	—	韮山駅	— 奈古谷 温泉口					15,822	13,920
奈古谷 温泉口	—	江川邸	— 韮山駅					11,720	10,730
長岡駅	—	直行	— 荒神社					377	311
合計				992,799	966,103	949,951	910,272	903,272	809,626

資料：伊豆の国市運行系統別輸送実績報告書

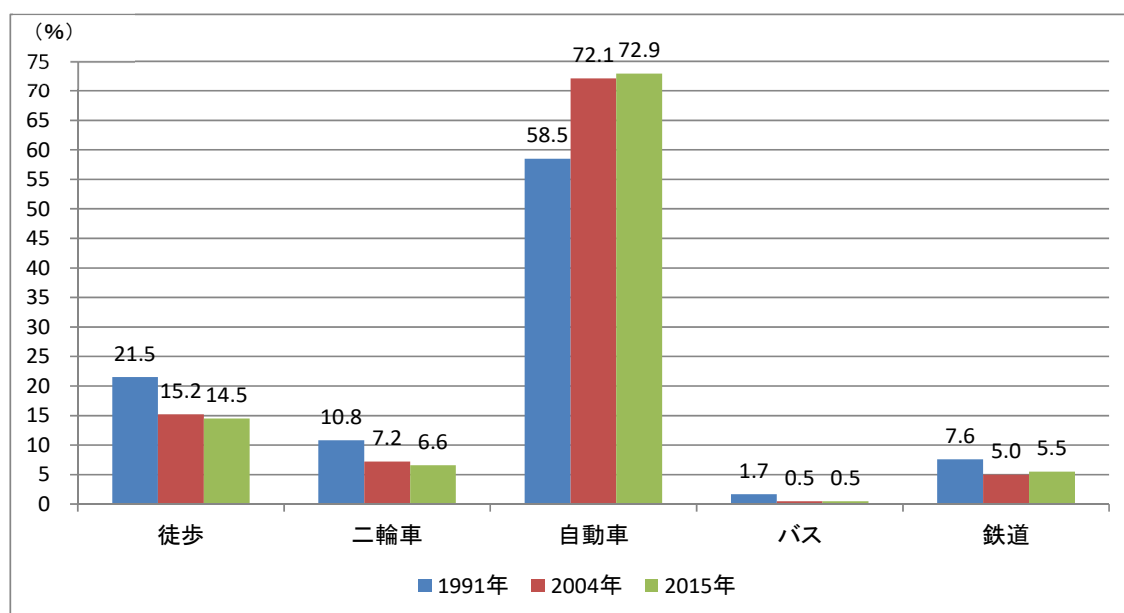
代表交通手段（※１）を見ると、1991年から2004年にかけては、自動車の割合が大きく増加しましたが、2004年から2015年にかけては微増となっています。徒歩、二輪車の割合は、1991年から2004年にかけては大きく減少しましたが、2004年から2015年にかけては微減となっています。

公共交通のうちバスの割合は、1991年から2004年にかけては大きく減少しましたが、2004年から2015年にかけては横ばいとなっています。鉄道の割合は1991年から2004年にかけては減少しましたが、2004年から2015年にかけては増加に転じています。

※１：代表交通手段：移動の際に利用する交通手段は、鉄道、バス、自動車、二輪（自転車、原付・自動二輪車）、徒歩がある。1つのトリップの中でいくつかの交通手段を用いている場合、そのトリップの中で利用した最も優先順位の高い交通手段を代表交通手段とする。代表交通手段を決める優先順位は、鉄道→バス→自動車→二輪（自転車、原付・自動二輪車）→徒歩の順となる。

■ 伊豆の国市における代表交通手段構成比

年次	徒歩 (%)	二輪車 (%)	自動車 (%)	バス (%)	鉄道 (%)
1991 年	21.5	10.8	58.5	1.7	7.6
2004 年	15.2	7.2	72.1	0.5	5.0
2015 年	14.5	6.6	72.9	0.5	5.5

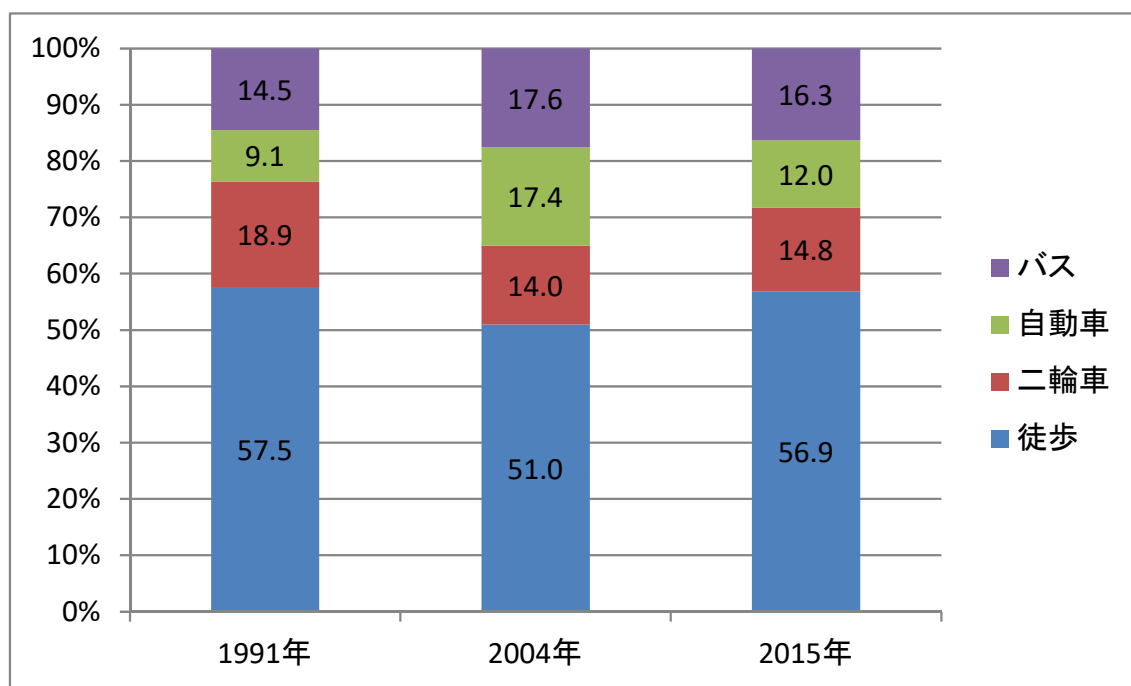


資料：第3回東駿河湾都市圏総合都市交通体系調査

伊豆長岡駅へのアクセス手段をみると、徒歩・バス・二輪車の合計の割合が90%を越えており、鉄道利用者の主要アクセス手段となっています。中でも、徒歩が50%強であり、鉄道と徒歩圏人口とは強い結びつきがあると言えます。

■ 鉄道駅端末アクセス手段構成比（伊豆長岡駅）

年次	徒歩 (%)	バス (%)	二輪車 (%)	自動車 (%)
1991 年	57.5	14.5	18.9	9.1
2004 年	51.0	17.6	14.0	17.4
2015 年	56.9	16.3	14.8	12.0

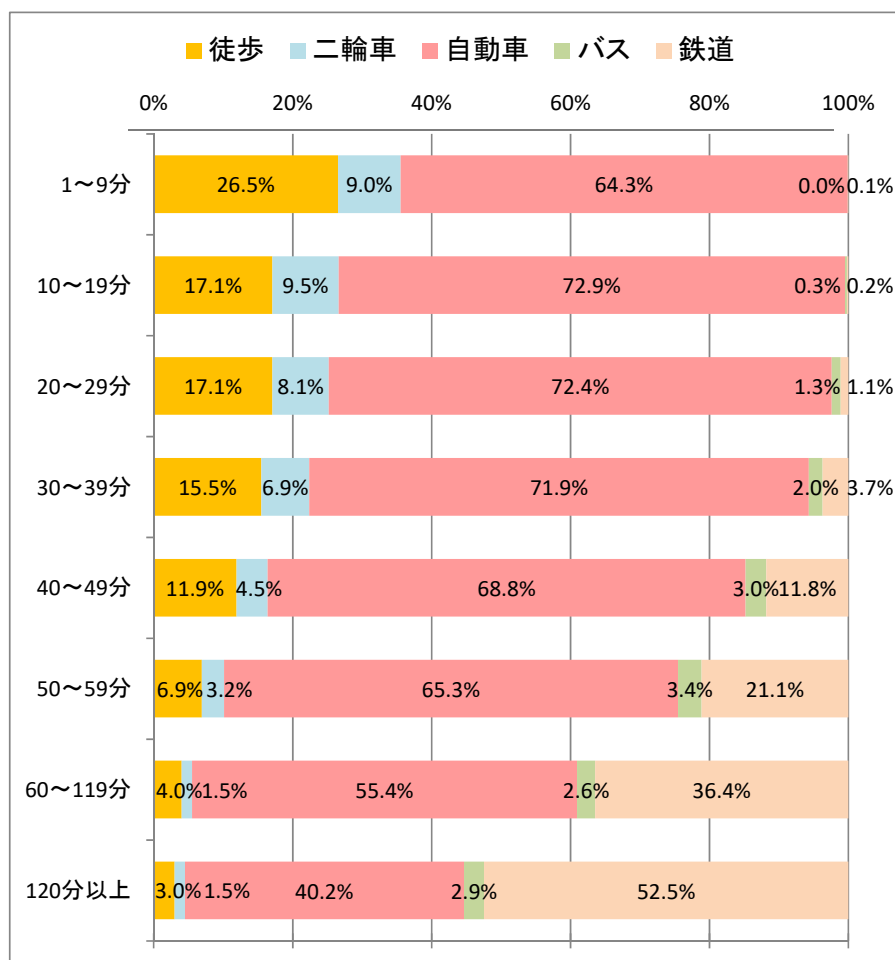


資料：第3回東駿河湾都市圏総合都市交通体系調査

東駿河湾都市圏（※１）における移動時間ランク別の代表交通手段をみると、20分以上の移動時間では公共交通の割合が増加し、徒歩・自転車が増加します。自動車の割合は、10～39分で70%を越えています。

※１：東駿河湾都市圏：沼津市、三島市、御殿場市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、清水町、長泉町、小山町の6市4町。

■ 2015年の移動時間ランク別代表交通手段構成比



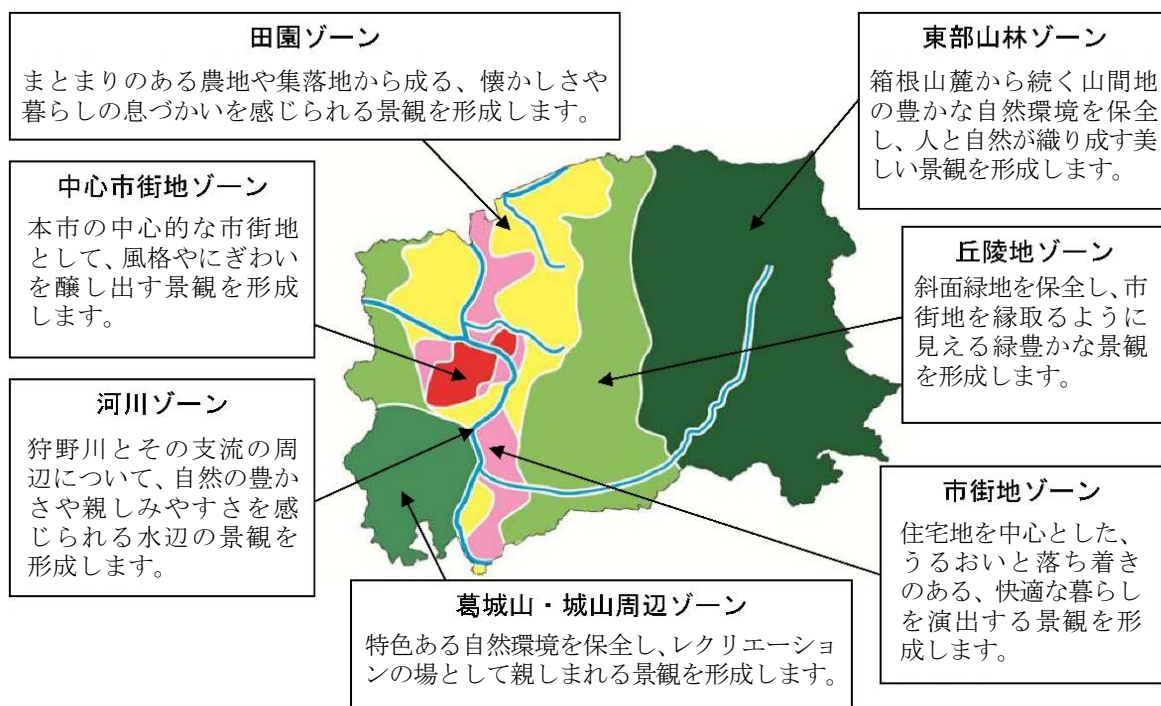
資料：第3回東駿河湾都市圏総合都市交通体系調査

(6) 景観

①景観形成

本市には、自然、歴史、文化、街並み等の多様な景観要素が市域全体に広がっていることから、良好な景観形成に関する取組みは市域全体で総合的かつ計画的に進めていく必要があります。このため、伊豆の国市景観計画では「市域全体」を景観計画区域として設定しています。

■ 土地利用別基本方針



資料：伊豆の国市景観計画

②ジオサイト

2018年4月17日、伊豆半島はユネスコ世界ジオパークに認定されました。市内各地にはジオサイト（※1）が分布しています。

※1：ジオパークを学び、自然と私たちの暮らしとのつながりを見つめなおし、そうしたつながりをきちんと守っていくためにどうしたらよいのか、活動の参加者一人一人が考える場所。

(7) 公園

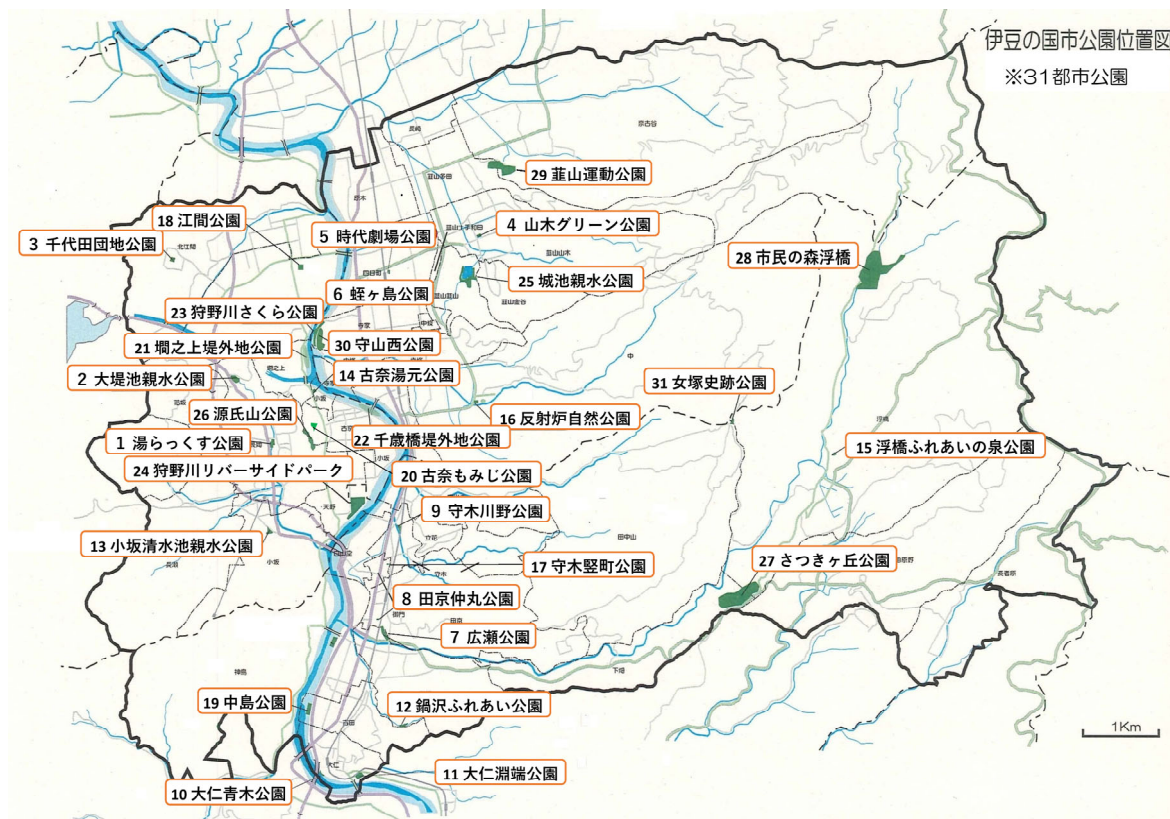
本市には都市公園(※1)が31箇所あります。その大半は市街化調整区域に分布しますが、市街化区域に隣接する都市公園も多く、周辺市街地の住民や観光客等に利用されています。

近隣公園や地区公園などの比較的規模の大きい公園の多くは、市内の河川の根幹となる狩野川沿いに位置しています。

なお、都市公園のうち、都市計画決定されている公園は6公園で、平成27年3月時点の開設率は約56%となっています。

※1：地方公共団体が都市計画区域内において設置する公園又は緑地

■ 都市公園分布状況図



資料：伊豆の国市都市計画課



狩野川リバーサイドパーク（天野地区）

都市公園法施行令では、市民1人当たりの都市公園面積確保目標を「行政区域で10 m²/人以上、市街地で5 m²/人以上」、伊豆の国市都市公園条例では、「行政区域で12 m²/人以上、市街地で6 m²/人以上」としています。

本市の行政区域内の1人当り都市公園面積は12 m²/人となっており、施行令及び条例が示す目標を確保し、市全域としては公園の量は概ね充足しているといえますが、市街化区域における都市公園の充足率未達成が課題となっています。

■ 1人当たり都市公園面積(実数)の比較(国・静岡県・伊豆の国市)

行政区分	伊豆の国市		静岡県 (※1)	全国 (※1)
	市街地	行政区域		
都市公園	6.7 m ² /人 (※3) (1.7 m ² /人) (※4)	12.0 m ² /人	8.4 m ² /人	10.1 m ² /人
都市公園等 (※2)	9.3 m ² /人 (※5) (2.1 m ² /人) (※4)	15.2 m ² /人	—	—

※1：静岡県及び全国の値は、平成26年3月現在、国土交通省の都市公園データベース。

※2：都市公園に公共施設緑地等を加えたもの。

※3：市街化区域縁辺部（誘致圏を考慮し、250m以内）に位置する、以下の9つの都市公園を含んだ場合。

- ①大堤池親水公園、②時代劇場公園、③守木川野公園、④鍋沢ふれあい公園、⑤堀之上堤外地公園
⑥千歳橋堤外地公園、⑦狩野川さくら公園、⑧狩野川リバーサイドパーク、⑨守山西公園

※4：市街化区域内のみの都市公園（等）で算出した場合。

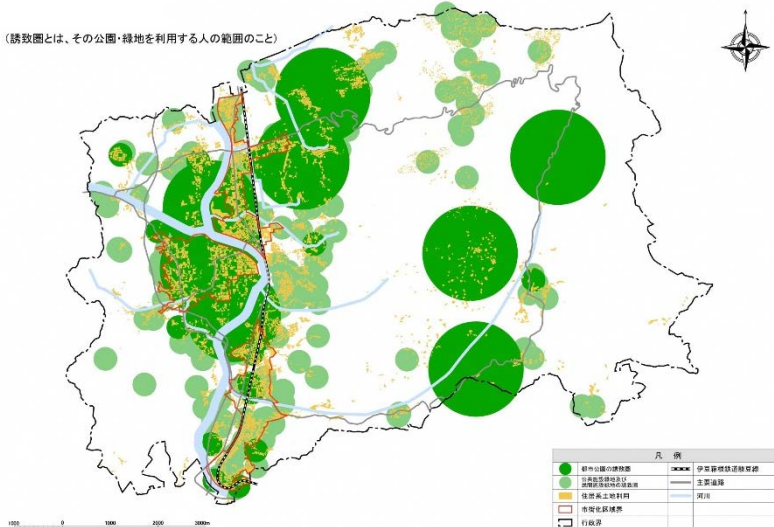
※5：市街化区域縁辺部（誘致圏を考慮し、250m以内）の上記の都市公園や公共施設緑地等を含んだ場合。

資料：伊豆の国市緑の基本計画

本市の公園・緑地の誘致圏をみると、都市公園だけでは住宅地をカバーできていないものの、公共施設緑地や民間施設緑地が補い、住宅地の公園利用を概ね満たしていることがわかります。

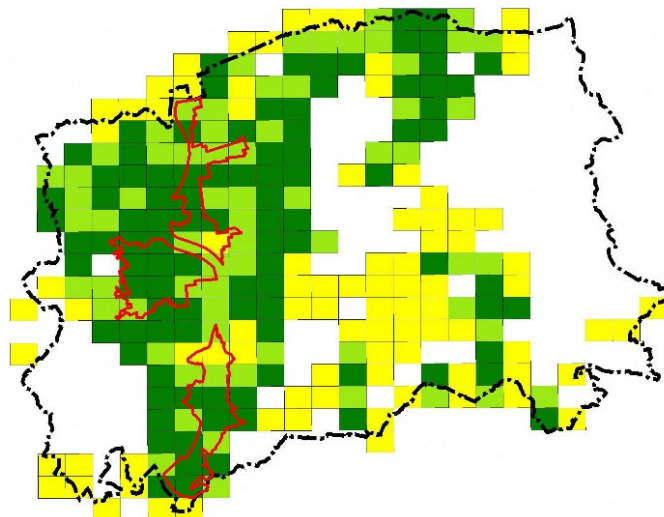
■ 公園・緑地誘致圏図

(誘致圏とは、その公園・緑地を利用する人の範囲のこと)



本市の市域を 500 m メッシュに細分化し、メッシュごとに公園等の量の過不足を確認すると、市街化区域内の伊豆長岡駅周辺 1 箇所、田京駅周辺 2 箇所の計 3 箇所のメッシュで、公園等が充足していないと推察されます。

■ 市全域の緑の量・配置に係る分析結果図



凡例	
	2040 年の推計人口 (約 36,000 人) 1 人当り公園面積が 6.0 m ² /人以上の、公園が「充足」するメッシュ
	隣接する緑色のメッシュ内の公園の徒歩圏となっているメッシュで、2040 年の人口 1 人当り公園面積が、隣接メッシュで合計して 6.0 m ² /人以上となる、公園の「利用圏域」にあるメッシュ
	緑色、黄緑色のメッシュに該当しない、公園が「充足していない」メッシュ
	人口問題研究所の将来人口推計等をもとに、2040 年に人が住んでいないと推測されるメッシュ

資料：伊豆の国市緑の基本計画

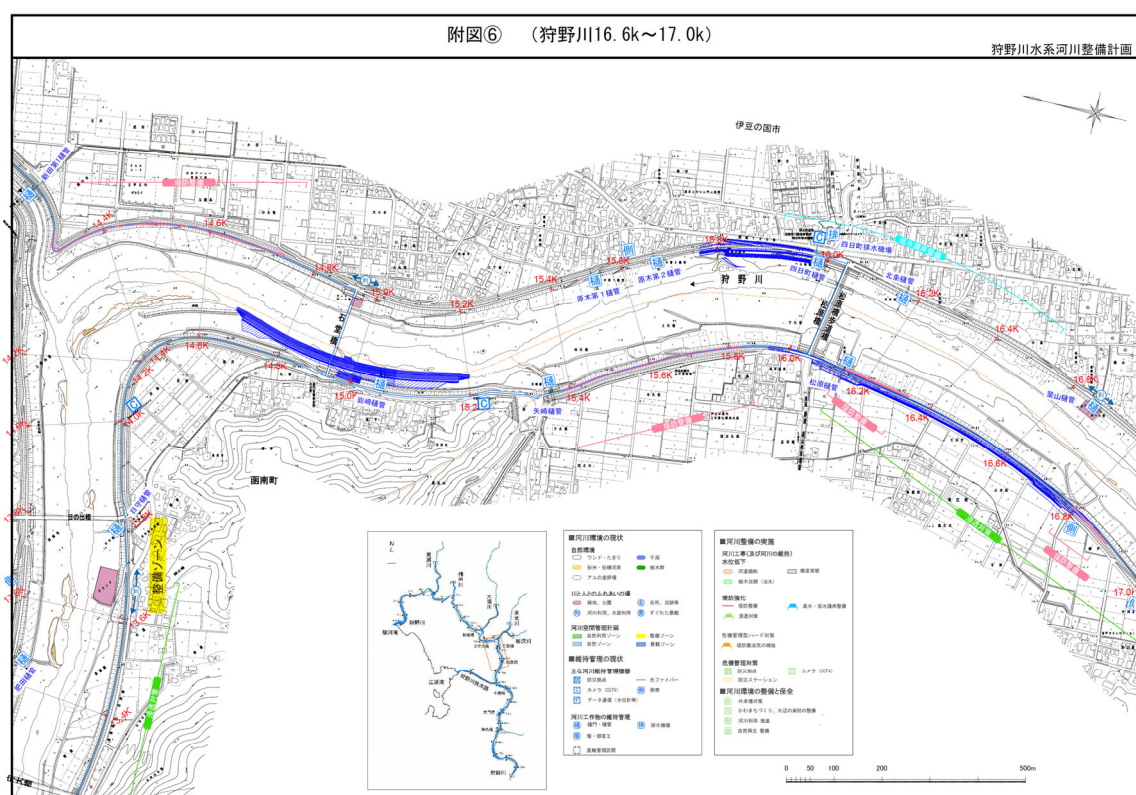
(8) 河川

本市の平野部中央には一級河川狩野川が北流しています。

本市は狩野川水系河川整備計画において、洪水、津波、高潮等による災害の発生防止又は軽減のため、堤防整備や危機管理対策、水門等の維持管理に努めるとされています。

また、河川環境の整備と保全のため、多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出に努めるとされています。

■ 狩野川河川整備計画



資料：狩野川水系河川整備計画（附図抜粋）

平成 17 年 12 月 16 日（平成 28 年 12 月 9 日変更）

国土交通省 中部地方整備局 沼津河川国道事務所

(9) 都市施設

① 上下水道

本市の上下水道の状況をみると、行政区域内人口は減少局面に突入した一方で、給水世帯数・処理区域戸数は増加しており、設備の普及が進んでいます。

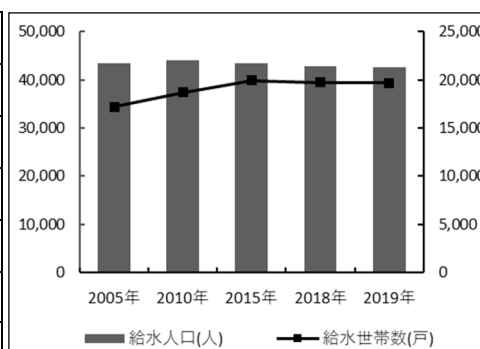
上水道の状況をみると、給水率は2005年からほぼ横ばいですが、年間給水量は減少しています。

下水道の状況をみると、普及率は年々増加傾向にあり、2019年では全国の79.3%より低く、静岡県の63.5%より高くなっています。

また、本市では2012年以降、伊豆エメラルドタウンの水道事業の公営化に向け、コンセッション等の官民連携手法の導入について調査検討を行っています。

■ 上水道の状況

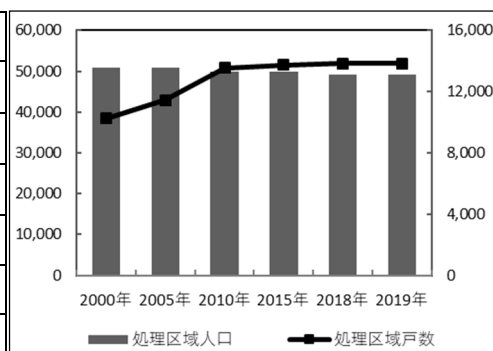
年次	2005年	2010年	2015年	2018年	2019年
行政区域内人口(人)	50,768	49,805	49,787	49,082	48,686
給水人口(人)	43,438	44,069	43,559	42,953	42,656
給水世帯数(戸)	17,216	18,704	19,946	19,738	19,670
給水率(%)	85.6	88.5	87.5	87.5	87.6
年間給水量(m³)	9,969,467	8,762,188	8,233,578	7,765,737	7,825,773
年間有効水量(m³)	9,217,752	8,092,227	7,644,451	6,694,601	7,279,318



資料：伊豆の国市統計書

■ 下水道の状況

年次	2005年	2010年	2015年	2018年	2019年
行政区域内人口(人)	50,768	49,805	49,787	49,082	48,686
処理区域人口(人)	30,585	33,192	33,386	33,589	33,438
処理区域戸数(戸)	11,457	13,562	13,745	13,849	13,915
普及率(%)	60.2	66.6	67.1	68.4	68.7
水洗化人口(人)	28,878	30,457	31,124	31,548	31,431
水洗化率(%)	94.4	91.8	93.2	93.9	90.8



資料：伊豆の国市統計書

※1：普及率とは、市の人口に対して処理区域内の人口の割合のこと。

普及率(%) = 処理区域内人口(人) / 行政区域内人口(人) × 100

※2：水洗化率とは、それぞれの処理区域内で実際に下水道に接続している人口の割合のこと。

水洗化率(%) = 水洗化人口(人) / 処理区域内人口(人) × 100

②汚物処理場、ごみ焼却場

本市はごみ処理関連施設を5施設、し尿処理施設を2施設設置しています。大仁し尿処理場は、2015年12月に施設を廃止済みです。

ごみ処理関連、し尿処理関連、資源循環関連とそれぞれの設置目的は異なりますが、各関連施設における施設内構成は概ね同じ構成となっており、機能が重複しています。

■ 供給処理施設 施設配置図



資料：伊豆の国市公共施設再配置計画

③火葬場

長岡斎場は、供用開始から 38 年が経過し、施設や火葬設備に老朽化が目立ち、修繕や維持に係る費用の増加や、慢性的な駐車場不足など多くの課題を抱えています。また、近い将来において火葬対応能力を超えることが予想されていることから、火葬需要に的確に対応する機能を有した、新たな火葬場の整備が求められています。

このため、市では、2021 年度の供用開始をめざし、伊豆の国市火葬場の整備を進めています。

④その他都市施設

本市には、高度医療の機能を持ち静岡県東部地区最大の救急救命センターを有し、静岡県東部ドクターヘリ運行基地病院である順天堂大学医学部附属静岡病院をはじめとして医療機関が点在し、健康で安心な市民生活を支えています。

現在、順天堂大学医学部附属静岡病院では大学付属病院として相応しい面積の増強や災害への対応のため、増築工事を行っています。将来の診療ニーズに応える高度医療拠点として増築、改修を行っており、2024 年に全体の工事が完了する予定です。

■ 順天堂大学医学部附属静岡病院 新病棟整備構想図



資料：順天堂大学提供